

## 沈香木の生息地と個体分布状況

金沢謙太郎（神戸女学院大学）

### ・ 課題

沈香は、東南アジア特有の林産物として長年にわたる交易の歴史がある。東アジアや中東などの消費地において、その文化的、経済的価値はきわめて高い。にもかかわらず、沈香は山奥深くに存在するため、その生態的情報はほとんど明らかになっていない。そこで、報告者は沈香木の分布にかんする定量的調査から試みた。

### ・ 調査地と方法

調査地は、マレーシア、サラワク州、バラム河上流域の Ba Lai 村周辺である。この地域には、商業伐採が入っていない原生的森林が残っている。森林内での調査に際して、村の成人男性の Raymond Pet 氏に同行、協力いただいた。地理的位置と面積の推定には Garmin 社製の GPS (MAP60-CS-AP) と PC 表示ソフト (Trip and Waypoint Manager ver. 6.0) を利用した。なお、各個体の近くで試みた GPS 信号の受信確率はおよそ 6 割であった。また、樹高の測定には Haglo 社の Vertex III、直径の測定には巻尺を使用した。沈香の採取量と品質（等級）評価については、村人の採取物を見せてもらい聞きとりを行なった。

### ・ 結果

集落周辺の 4ヶ所計 90ha において、73 本の沈香木個体（ジンチョウゲ科ジンコウ属 *Aquilaria beccariana*）を記録した。樹高の平均は 9.1m、直径の平均は 11.4cm であった。そのうち、沈香成分が比較的多く含まれていたと思われる 11 本は村人により伐採されていた。腐朽がかなり進行していた 2 個体を除く伐採木の樹高平均は 15.5m、直径平均は 19.9cm であった。なお、樹高 18m 以上で直径 28cm 以上の 4 個体はすべて伐られていた。2004 年 8 月の 1ヶ月間に村人は推定 1,350ha の森林から 4.35kg の沈香を採集した。同量は、仲買人による買い取り価格（1kg 当たり RM50~2,000 の等級別に評価）と照らし、推定で RM1,345（約 4 万円）に当たる。

### ・ 考察／残る課題

Ba Lai 村の人びとが認識している村の境界内には、およそ 18 万 ha の原生的森林が広がっている。18 万 ha に対して、今回得られた沈香木の分布密度をそのまま当てはめると、約 15 万本が分布している計算になる。また、この 1ヶ月間に村人がカバーした 1,350ha を 18 万 ha 全域に拡大したと仮定すると、およそ RM18 万の仲買価格に相当する。Ba Lai 村に隣接する Selungoh 地区には約 30 万 ha、Pulun Tao 地区に約 70 万 ha の原生的森林が残されている。しかしながら、政策的にこのまま何も手が打たれなければ、数年内に木材生産用の商業伐採が入るのは必至である。今後は、土地利用別の沈香木分布を調べ、仮に上記森林で商業伐採がなされた場合の社会・経済的試算と比較検討を行い、この地域での持続的森林利用オプションを追求したい。